

資料 9-② 【自立活動】

部【 】科 授業実践研究フレームシート						
教科・科目・授業名		指導期間	月 日 ~ 月 日			
対象児童生徒		部 年	学級	指導者		
0 a 対象児童生徒の実態						
① 障害・病気の種類						
② 障害・病気の程度・状態						
③ 児童生徒の実態に係る具体的な情報の収集				流れ図①		
知覚発達や経験の程度						
興味・関心						
生活や学習環境・習慣						
将来の生活環境・希望						
障害理解						
学力・学習特性や配慮						
長所やよき						
課題等						
④ 個別の指導計画 重点目標						
⑤ 個別の指導計画 自立目標						
0 b 実態把握と課題整理						
実態把握	① 収集した情報(0ー③)を自立活動の区分に即して整理する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	② 収集した情報(0ー③)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階					
	※各項目末尾に()を付け、自立活動の区分を簡単に記載し、わかるように示しましょう。					
	③ 収集した情報(0ー③)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階					
	※各項目末尾に()を付け、自立活動の区分を簡単に記載し、わかるように示しましょう。					
	④ 上記までで整理した情報から課題を抽出する段階					
指導すべき課題の整理	⑤ 上記で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階					
0 c 大目標と具体的指導内容						
導きだした目標と具体的な指導内容	① 課題(1ー⑤)に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階					
	課題整理の中で、今指導すべき指導目標として					
	② 大目標(ねらい)(2ー①)を達成するために必要な項目を選定する段階					
	指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き
	③ 項目と項目の関連付け					
	④ 具体的な指導内容を設定する段階					
	項目に関連付けて具体的な指導内容を設定	ア		イ		ウ
1 目標（何ができるようになるか）						
単元で目指す「できた」 (小目標)						
① 将来・日常の生活との関連						
② 卒業後や日常にどう活かせるか 繋がるか						
③ 想定する具体的に到達状況						
④ 単元で目指す「基礎力」						
2 単元内容（何を学ぶか）						
① 単元・題材名						
② 単元の概要(指導内容)						
③ 単元にかかわる内容と項目						
内容		区分	項目			
①						

記載上の注意 ※このシートは「自立活動」用です

・プルダウンで選択してください。できるだけ自動化していますが、それ以外は自身で打ち込んでください。枠サイズは自由に広げてください。

★自立活動シートは、「自立活動の流れ図」を組み込んでいます。「流れ図」を単独のシートで取り組みたい場合は下部のタブでそれぞれのシートに移動し、取り組んでください。このままだう場合は、「流れ図①～⑥」の箇所の数式を無視して取り組んでください。

作成には新要領解説自立活動編第7章「個別の指導計画の作成と内容の取扱い」を参照

0の①～③は、流れ図の始め、情報収集の過程になります。

④個人データからコピー

⑤個人データからコピー

※ 個別の指導計画で担任によって設定されている目標

1の①～⑤は、「流れ図」の前半、実態把握と指導すべき中心的な課題を整理する過程になります。

2の①～⑤は、「流れ図」の後半、中心的な課題に対する大きな目標とそれに対する具体的な指導内容を整理する過程になります。

自立活動の「目標」は、「障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善克服するために必要とされる知識、技能、態度及び習慣を養う」ことであり、そのための指導の「内容」をまとめたものが6区分28項目

←使ってください
必要に応じコピーで増やしてください

☆は学校設定視点
★は新要領の中心視点
■は自立活動の視点

☆

1-③の卒業後のこと、2-①の大目標、2-④の指導内容をふまえ、この単元の目標を設定してください。

※自立活動には観点別の目標はありません

③自活編解説P118を参照しています

☆ ④昨年度研究・年計で考えた基礎力も参考に、この単元の基礎力を選択してください。

★

②大まかにどのような課題から何をできるようにする
のかの指導内容がわかるようにしてください。

③上記「流れ図」同様、指導の「内容」を6区分27項目から検討してください。

②			
③			
④ 指導内容の考慮点			

3 指導の工夫（どのように学ぶか） ●個別の実態に応じた指導の工夫●		
① 「できた」に向かう具体的手立てとその過程		
② 4-④の考慮点に対する工夫・実践方法		
③ 意欲を促す工夫		
④ 全人的発達を促す工夫 ※自立活動を主として行う人のみ		
⑤ 各教科等の指導との関連を図る工夫		
⑥ 学校の教育活動全体での指導		
⑦ 専門の医師等との連携協力		
⑧ 言語活動充実への工夫		
⑨ 情報教材・機器の活用能力育成の工夫		
⑩ 見通し・振り返りへの工夫		
⑪ 体験活動の工夫		
⑫ 自主的・自発的学びへの工夫		
4 発達への支援や配慮・指導方法や指導体制の工夫(どのように支援するか)		
① 知的発達段階や認知特性に対して		
② 身体・病状に対して		
5 授業で活用する教材・資源(何が必要か)		
① 人的教材・資源		
② 物的教材・資源		
③ 環境的教材・資源		
6 評価(何が身についたか)		
① 「できた」かどうか		
② 児童生徒への評価		
目標への到達状況	目標に向けた変容の状況	
	学習内容への意欲	
	指導の工夫(5-①～⑫)に対する様子	
	児童生徒のつまづき	
③ 教師側評価		
計画・指導状況	目標的確かさ	
	設定した内容の適切さ	
	指導の方法・工夫	
	実態に合わせた指導期間中の改善	
7 次に向けた改善点		

指導観

④ 解説第7章の2の(3)具体的内容の設定参照

★ 自立活動は、「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素」及び、「障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善克服するために必要とされる要素(知識・技能・態度及び習慣)」つまり、心身の調和的発達の基盤を指導するものであり、各教科等で育まれる資質・能力を支える役割を担っている。自立活動の目標に出てくる「知識・技能」と「態度」は、3観点の土台といえることができる。ただ、自立活動の内容として、「才 自己選択・自己決定」の機会を設けることで、「思考・判断・表現力を高めることができるような指導内容を取り上げること」が示されている。(幼小中自立活動編解説P21～22参照)

自立活動は特に、個別の時間だけではなく、他の時間や日常での取り組みと密接な関連を図ることが必要です。

★ ⑧～⑫は、新指導要領総則より。当てはまる場合のみ記載。

★ ・使うものを記載 ・ナシならなしで構わない

★ ③「できた」「できない」「〇〇したらできる」等端的に記載

補足1:指導計画等の作成上の配慮事項
計画を立てる上で、指導要領各教科等の目標や内容はもちろんだが、要領及び解説の「指導計画の作成と内容の取扱い」に、教科等の特質に応じてどのような学習活動等の充実を図るとよいかを例示しているので参照してみてください。

補足2:この「授業実践研究フレームシート」は、今回の校内研究における以下の目的のために作成しました。
①児童生徒が「できた！」を感じられる授業を目指すこと。あわせて教師も、児童生徒に力をつけることが「できた！」といえる授業を目指すこと。
②児童生徒の将来に「生きる」力として整理した八養版「社会人基礎力」の視点を持つこと。児童生徒の将来を意識すること。
③新学習指導要領の理解につながる。そのため、フレームシート②【自立活動】は、新学習指導要領の解説、自立活動編の第3章、第7章をベースに、総則編第3編第2章第4節の教育課程の実施への配慮、総則に含まれるカリキュラム・マネジメントの要点を踏まえ、授業を行う上で検討すべき事項を押さえられるように構成に配慮した。※ただし、単元の具体的な推進計画や内容構成については、ここでは外している。